

学校ホームページ・広報について

Q01 ホームページの更新を定期的に行ってほしい。

運動会などの学校行事の様子や部活動の大会報告などをホームページ等で知らせてほしい。

A01 ホームページの更新については、多くの保護者からご指摘をいただきました。学校からの情報発信を十分に行えず、保護者の皆様にご不便やご心配をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。ホームページの更新が滞ってしまった主な要因として、担当者の変更に伴う引き継ぎが十分でなかったこと、更新作業の方法が分掌内で共有されていなかったこと、また、特定の担当者に業務が集中してしまったことが挙げられます。これらは、学校の体制上の課題であり、学校として重く受け止めております。今後につきましては、ホームページのシステムや運用方法を見直すとともに、更新権限を複数の職員に割り振り、情報を分担して発信できる体制を整えてまいります。あわせて、更新手順の共有や引き継ぎの徹底を図り、継続的かつ速やかな更新が行えるよう改善に努めてまいります。保護者の皆様にとって、学校ホームページが必要な情報を適切なタイミングで得られる場となるよう、学校として責任をもって取り組んでまいります。

Q02 家庭とのやりとりや情報共有もデジタル化を進めてほしい。

A02 今年度より全県で活用している「すぐる」を本校でも利用開始しております。家庭からの欠席連絡、学校からの通信等もこれを利用して配信することが可能です。これまで利用し慣れていた「Classi」も併用しておりましたが、次年度以降は家庭との連絡や情報提供は原則として「すぐる」に一本化し、速やかな情報共有ができるように努めてまいります。

Q03 《高校》授業参観をする機会を設けてほしい。

A03 高校の授業を参観する機会を設けられず申し訳ございませんでした。次年度に向けて授業参観をPTA 総会や各学年 PTA の実施日に設定するなど、検討してまいります。

授業・学習活動・進路指導について

Q04 中高一貫校だからこそできる活動や中高の連携などをもっと生かしてほしい(海外への修学旅行をはじめ英語やグローバル教育、高校との合同行事など)。

A04 中高一貫校の特長を最大限に活かした教育活動の充実は、重要な課題であると認識しております。海外への修学旅行や英語・グローバル教育の推進、中高合同での行事や交流活動などにつきましては、生徒の視野を広げ、将来につながる学びの機会として大切にすべきものと考えております。現在も、

中等部・高等学校が連携しながら教育活動を進めておりますが、ご指摘のとおり、さらなる工夫や発展の余地がある点については、真摯に受け止めております。現在も特色のある取組を行っておりますので、今後は、これらの取組の「見える化」に努めるとともに、教育課程や学校行事の在り方を検討する中で、中高一貫校ならではの学びをより一層充実させることができるよう、引き続き検討を重ねてまいります。

Q05 《中等部》中等部の英語の授業のレベルを上げてほしい。

A05 現在中等部の英語の授業においては、3年生で将来の大学入試を見据えた「文法表現の先取り学習」等に取り組んでおります。生徒の理解度や習熟度を丁寧に把握しながら、より高度な英語力の育成を目指して授業内容の充実に努めております。次年度以降も、生徒が知的好奇心をもって学習に取り組めるよう、継続的に授業改善に努めてまいります。

また、本校の特色の一つである学校設定教科である「J.E.Communication」においても英語コミュニケーション能力のより一層の向上に努めてまいります。

Q06 金融リテラシーを授業等で扱ってほしい。

A06 金融リテラシーは、これからの社会を生きていく上で重要な力の一つです。本校では高校において、公民科や家庭科の授業の中で消費生活や契約の仕組み、家計管理に加え、株式をはじめとする金融商品の基本的な考え方や、保険の役割、社会保障制度との関わりなどについても取り扱い、生徒が将来の生活と結び付けて理解できるように指導をするなど、学年や教科の特性に応じて、段階的に理解を深められるよう工夫して指導を行っております。これからも、各教科の学習内容と関連付けながら、金融リテラシーの育成につながる学びの充実を図ってまいります。また、社会の変化や生徒の実態を踏まえ、必要に応じて内容についても検討してまいります。

Q07 同じ教科でも先生によって授業内容に差があって困る。

A07 例えば、英語科では、使用教材や進度、評価基準について教科会議で定期的に協議・統一しています。ご指摘を受け、全ての教科に対してクラス間で差が生じないように、教科組織で指導内容を共有するなど、今後も充実した授業づくりに努めてまいります。

Q08 《中等部》小学校の頃よりタブレット授業が減ったと聞く。授業内でタブレット端末を有効に活用しているのか。

A08 ICTの活用については、使用することが目的ではなく、あくまでも手段であるということ踏まえ、学習効果が高い場面での確実な活用を意識しておりますが、教員のICTに対するスキルアップは本校の課題の一つであり、研修のさらなる充実に努めていく必要があるものと捉えております。

Q09 《高校》学力差を改善するために、どのような取組をしているのか。

A09 特に学力差が顕在化しやすい高校の数学や英語の科目によっては、授業において、少人数学習や習熟度別学習を行っております。また、発展的な学習や基礎的な学習を希望する生徒の要望に応えるために、授業の中で、授業進度を超えた内容や既習事項の振り返りを可能な範囲で積極的に扱うように

しています。

Q10 部活動等で公欠になった際の授業のフォローはしてくれないのか。

A10 部活動や病欠等により、授業を欠くことで学習が遅れてしまうことを心配されるのはもっともなことだと思いますが、そのために平日に補習等を行うことは、生徒と教員のスケジュールの関係上、難しいことが多いのが現状です。今後も、生徒の要望に応じた個別対応や長期休業中の課外授業への積極的な参加など、授業の遅れを積極的に取り戻そうとする生徒の意欲に応えられるよう支援してまいります。

Q11 中高の不登校生徒に対するオンライン授業は実施できないか。

A11 文部科学省から通知されている「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について」に基づいて、本校においても不登校生徒を対象としたインターネットや ICT を利用した遠隔教育やオンライン学習の実施を進めていくことを検討しています。
一方で、生徒の不登校状態の深刻化、安易な単位認定、他の生徒の学習意欲の低下等の弊害が生じないよう留意し、必要な指導の内容及び方法を十分に検討する必要があります。家庭とも連携し、協力を得ながら、個々の生徒の状態やニーズを把握し、必要に応じて専門機関からの助言をいただきながら個別に対応してまいります。

Q12 クマ被害や冬期の交通状況により、登校が困難な場合への対応として、オンライン授業等の検討をお願いしたい。

A12 インフルエンザ等感染症による学級閉鎖時などは、教科により一部オンライン授業を行っています。全てのクラスが同時にオンライン授業を実施するための環境整備は十分であるとは言えない状況であることから、今後も現状を踏まえた上で、できる限りの対応を検討してまいります。

Q13 探究活動に使われる時間が多く、勉強や部活動、その他課外活動が圧迫されているのではないかと心配している。

A13 ご指摘のとおり、本校の生徒は探究活動だけでなく、探究活動以外の学習活動や部活動、生徒会活動など、様々な教育活動に積極的に取り組んでおります。そのため、探究活動が他の活動に影響しないよう、現在実施している活動内容を見直し、「スリム化」を図るなど、次年度に向けて、教育活動全体のバランスをみながら検討しているところです。

Q14 《中等部》中等部の学習について、数学以外の教科においても先取りをするべきではないか。

A14 中等部は2年生で数学の授業時数を週あたり1時間多く設定することで、3年生の秋頃から高校で学ぶ数学Ⅰの内容に入っていきます。他教科でも、同じような先取りをすることは、数学と同様に授業時数を増やすことになり、十分に検討していく必要があるものと考えております。

**Q15 部活動と勉強の両立が難しく、成績不振者対象の補習等の支援があればありがたい。
また、両立できるような部活動のあり方(練習時間等)を各部活動に指導してほしい。**

A15 部活動に意欲的に取り組む一方で、学習との両立に不安を感じられている保護者の皆様のお気持ちは、学校としても大変重要な課題であると受け止めております。本校では、考査前に一部の教科や部活動において勉強会や学習支援を実施するなど、学習面のフォローに取り組んでおります。また、練習時間につきましては、考査前1週間は原則として部活動を行わないこととしております。また、県教育委員会で作成している活動時間や日数等に係る部活動のガイドラインを各部活動に周知し、遵守するように働きかけております。一方で、ご指摘のとおり、部活動によっては活動に熱が入りすぎ、学習とのバランスに十分な配慮が行き届いていない場面があることも、学校として認識しております。今後は、改めて部活動顧問に対し、学習との両立の重要性やガイドラインの遵守について指導を行うとともに、生徒一人一人の状況に目を向け、必要に応じて声かけや学習支援が行えるように体制の充実を図ってまいります。部活動は、技術や体力の向上だけでなく、人間関係や責任感を育む大切な教育活動であり、学習もまた生徒の将来にとって欠かせない教育活動です。両立が図れるよう、学校として引き続き工夫と改善に努めてまいります。

Q15 《高校》定期テストの出題内容や難易度が同じ教科であっても、教科担任によってばらつきがあるのは公平ではないと感じる。

A15 定期考査の出題範囲や難易度が、同一科目内で異なることのご指摘をいただき、すべての教科・科目について改めて確認しました。その結果、同じ履修単位の考査で、出題範囲が異なることはありませんでした。考査問題の難易度については、授業内で習熟度に応じて発展的な内容に触れたり、基礎的な内容に触れたりすることはありますが、扱っていない内容を出題するということはありませんでしたが、もしそのようなことが実際にあると聞いている場合は、直接本校の管理職に問い合わせいただくとありがたいと思います。

Q16 大学受験を意識しすぎて課題が多く出され、生徒たちが消化不良を起こしているように感じる。学習内容がしっかりと身に付く取組をお願いしたい。

A16 今後も本校生徒の実態を踏まえた上で、予習・授業・復習のサイクルにおける家庭学習用の課題の在り方について検討してまいります。

Q17 旧帝大や有名国公立大学を目指すだけの授業や情報提供だけでなく、幅広い大学等の情報提供や社会で必要な力を身に付けられるような授業をお願いしたい。

A17 難関大学等の過去問題については、思考力や表現力を高める良い機会となるため授業内で触れることはありますが、そのことが難関大学への進学を誘発するような言動にならないように十分に注意が必要だと考えております。また、本校では、特に探究的な学習活動を重視しており、基本的な知識や技能はもちろんのこと、探究力や協働力といった資質・能力の育成に努めており、このような資質・能力は大学だけでなく、その先の社会でも必要な力であることから、今後もさらなる充実に努めてまいります。

Q18 成績や資格試験に関する情報提供が遅い。また指定校推薦の情報が無いのはなぜか。

A18 成績や資格試験の情報はできる限り早く提供できるように工夫してまいります。学校推薦型選抜の指

定校制についての情報は進路の手引きに載せてありますが、数が多いために全ての大学を掲載できませんので、生徒には改めて進路指導室の担当職員に相談するように指導してまいります。

Q19 試験監督なのに、試験中に掲示物を直したり、黒板に今必要でないことを書き始めたり、生徒の気が散る行動をする先生がいるようだ。神経質で集中力がない方にも問題があることは承知しているが、試験中はできるだけ静かにお願いしたい。

A19 職員には、試験監督に専念するように改めて指導してまいります。

Q20 生徒にも生理休暇が必要ではないか。

A20 生理に伴う体調不良は個人差が大きく、学習や学校生活に支障をきたす場合があることを十分認識しております。そのため、生理に限らず、腹痛や頭痛等を含む体調不良を訴える生徒に対しては、無理をさせることなく、保健室での休養、早退・欠席・遅刻等、状況に応じた柔軟な対応を行っております。今後も養護教諭・担任を中心に、生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、安心して相談できる環境づくりに努めてまいります。体調面でご心配な点がございましたら、どうぞ遠慮なく学校までご相談ください。

Q21 高2からのDクラスが文理の混合である理由を知りたい。

A21 高2年からのD組は、「総合的な探究の時間」において「学術探究」を希望する生徒で構成されています。「学術探究」はグループ単位で、より専門的な探究活動を行っており、文理の隔てなく教科横断的な探究活動に取り組んでいるため、D組には文系と理系の生徒が混在することになります。「学術探究」は文系の強みと理系の強みを生かすことでより質の高い研究内容に練り上げられていくものと考えております。

Q22-① 中等部卒生の子供達は高校1年だけではなく、高校卒業まで中等部卒生のクラスにしてほしい。

Q22-② 中入生の数学は教室移動があるようなので、高入生と分ける必要性をそれほど感じない。高1から混合クラスでも良い。

A22 令和8年度の高校1年生のクラス編成については、高校入試の定員減少等も踏まえ、教職員や現中等部3年生の保護者を対象に行ったアンケート結果を参考にしながら、時間をかけて検討してまいりました。その結果、令和8年度の高校1年生のクラス編成については、これまで通り中等部進学者のみのクラス編成を継続することに決定しました。高1における混合クラス編成については、現在のクラス編成の成果や課題を検証した上で、今後も引き続き検討してまいりたいと考えています。

Q22 《中等部》中等部においても、大学受験も意識できる環境にしてほしい。

A22 例年、学活や総合的な学習の時間などで、職業や大学、学部調べなどを行っております。中等部3年生では、本校の高校生を対象に開催される学部・学科ガイダンスに高校生と一緒に参加したり、本校の高校3年生の合格体験を聴く会を開催したりしています。今後も、生徒一人一人が、より自分自身の進路について具体的に考えることができるような取組を継続するとともに、大学受験も意識できるような更なる環境づくりに努めてまいります。

Q23 子供は、難関大学を目指さない人は相手にされていないと感じているし、親から見てもそのように感じることもある。発言や表現に気をつけてほしい。

A23 ご指摘のようなことを感じさせることがないように、誤解されるような言動には十分に注意するとともに、全ての生徒や保護者の皆様が希望する進路について考え、行動できるような指導の充実に努めてまいります。

Q24 中等部からの進学者は難関大学等に合格しているが、高校からの入学生は伸びていないのではないかな。

A24 本校の高校入試の倍率は今年度も 1.2 倍を超えるなど、毎年学習意欲の高い生徒が入学し、中等部からの進学生とともに切磋琢磨しながら学校生活を送っているものと認識しております。今後も全ての生徒が高い目標を掲げ、努力できる環境作りに努めてまいります。

Q25 受験生が不安になったり、モチベーションが下がるような発言は控えてほしい。

また、個別相談に際しては、学校の都合ばかり主張して、親身に相談に乗ってもらえなかったと感じ、とても残念である。

A25 十分な対応ができず申し訳ありません。個別相談については、生徒や保護者の皆様に寄り添い、学習意欲の向上が図られるよう、言動には十分に注意するなど、配慮してまいります。

生徒指導・学校生活全般について

Q26 《中等部》化粧や茶髪など整容面も含めて高校につながる生徒指導を行ってほしい。

A26 頭髪・服装等については、生徒心得にあるように、質素・清潔・端正を旨として指導しています。これらに反する頭髪・服装等が見られた場合は、ご家庭とも連携しながら随時対応してまいります。

Q27 《中等部》放課後の飲食店等の利用は許可されているのか。SNS にあげている生徒もいるように感じる。

A27 県内の中学校においては、通常「登下校中に寄り道をしない」という指導をしており、本校においても同様の指導をしております。生徒心得にも放課後の時間帯については「活動がない場合はすみやかに帰宅すること」と記載しております。もし、放課後の飲食店の利用や、その様子のSNSへの投稿を見た場合は、速やかにお知らせいただきたいと思っております。

Q28 《中等部》生徒指導(スマホ、部活動継続など)のきまりについて、基準が設けられているなら、形骸化にならないよう、厳格に実施してほしい。生徒たちに自律の意識を高めるためには必要ではないかな。

A28 スマートフォン等の通信機器は、家庭からの申し出により校内への持ち込みを許可しております。また、中等部の3年生の生徒は、高校での活動につなげるために、部活動継続願いを提出することで、部活動に参加できるようにしております。これらの届出を出す際には、保護者連名の上で決められたルールを守ることを約束し、約束が守れなかった場合は随時指導をしております。今後も、約束したことを守ることの大切さを意識させていくことで、生徒の自律心や責任感を育ててまいります。

Q29 整容やモラルなど、同じことをしていても注意される生徒とされない生徒がいると聞く。公平に指導してほしい。

A29 生徒指導に関しては、全生徒に対して一律同じスタンスで指導しておりますが、公平さに欠けることのないように取り組んでまいります。

Q30 飲酒問題やピアス(口・耳)を付けての登校等が、生徒や保護者の間で話題になっており、その対応に一貫性がなく、不満である。

A30 飲酒は法律で、学校生活に必要なない装身具・化粧等は校則で禁止しております。校則で禁止している内容であっても、学校外の諸活動が必要な場合は、申し出により個別に対応する場合がありますので、お気付きの点があれば学校へご一報くださるようお願いいたします。

Q31 夏場だけでも体操着での通学を許可してもらいたい。

A31 暑い時期の体育着の着用については、体育着で登校した際に、体育の授業で汗をかいて、着替えをするときの服装の取り決めなど、いくつか課題があることから、現在検討中です。方針が決まり次第、お知らせします。

Q32 指定ワイシャツがノーアイロンだと助かる。

A32 ご指摘を受けまして、現在、導入に向けて、業者に相談をしております。業者から、次年度の対応は難しいものの、令和9年度からの導入に向けて検討する旨の連絡をいただいております。詳細が決まり次第お知らせ致します。

Q33 制服、部活動、暑さ対策など、時代に合わせてアップデートしなければならないことが南高には多くあると思う。世間をよく見渡して変化して欲しいと感じる。

A33 生徒の主体性や自主性を重んじることは重要な教育の1つです。今後、生徒会を中心に話し合う時間を作り、検討してまいります。登下校の服装、暑さ対策については現在、生徒会と検討中です。

Q34 現状の校則に則れば、生徒は登校から帰宅まで、電車遅延や運休になる旨をスマホ等から把握する手段がない。生徒が下校する時点で確認可能な掲示板などで遅延運休を確認できる情報共有を検討していただきたい。

A34 電車の運休に関しては、授業中であっても校内放送で全生徒へ知らせるとともに、代替手段がない場合も想定し、電車が運行している間に帰宅するよう促しております。また、電車の急な運休や遅延に関する情報、クマ出没に関する情報(クマダス)等について、校内で確認できるよう、状況に応じてス

マホやタブレット端末等を使用できる時間と場所をつくることにしております。

Q35 《中等部》クマ対策で、羽後牛島駅から学校までの経路で何かできることはないか一緒に考えてほしい。

A35 近年、周辺地域において熊の出没情報が確認されており、生徒の安全確保は学校としても大変重要な課題であると認識しております。当該区間は通学路として多くの生徒が利用しておりますが、学校敷地外であることから、学校単独での対応には限界があるのも事実です。そのため、関係機関や地域と連携しながら、生徒及び保護者の皆様と情報を共有し、対策を一緒に考えていきたいと考えております。現時点では、クマの出没情報があつた際の迅速な情報共有、複数人での登下校を促す指導、放送や掲示等による注意喚起、必要に応じた登下校方法の見直しなどを行い、生徒の安全意識を高めるとともに、被害防止に努めています。今後も状況に応じて柔軟に対応してまいりますので、地域でお気付きの点やご意見等がございましたら、学校までお知らせいただければ幸いです。

Q36 特色選抜や中等部からの進学生にばかり力を入れていて、一般の生徒との扱いに差を感じる。

A36 保護者の皆様にそのような印象を与えてしまっていることを学校として重く受け止めております。本校では、入学の経緯や選抜方法にかかわらず、全ての生徒に対して平等に対応することやそれぞれの個性や可能性を伸ばすことを基本方針として教育活動を行っております。学習指導、進路指導、生活指導等においても、特定の生徒に偏ることのないよう、全体を見渡しながら指導・支援を行っております。中等部から継続して行われている数学の先取り学習やそのことに伴う高校での習熟度別学習など、異なる学習形態を実施することなどにより差が生じているように受け取られてしまうことがあるのではないかと推察しております。今後は、学校としての教育方針や取組について、より丁寧な情報発信に努めるとともに、すべての生徒が差を感じることなく、「大切にされている」「認められている」と実感できるよう、日々の指導や学校運営を改めて見直してまいります。

給食について《中等部》

Q37 給食の時間をもう少し長くとれないか。

A37 給食時間についてのご意見をいただき、ありがとうございます。給食の時間は、よく噛んで味わいながら食事をすることや、落ち着いて楽しく食べることができるよう配慮すべき大切な時間であると、本校としても考えております。

一方で、実際には移動教室や体育後の着替え等の関係により、給食準備に取りかかる時間が遅れ、結果として食べ始める時間が遅れてしまう場合があります。その際は、学級の判断により、状況に応じて食べ終わりの時間を延長するなどの対応を行っております。

今後も、給食当番だけでなく、学級全体で協力してスムーズに準備ができるよう指導するとともに、配膳に時間がかからないよう、献立内容についても配慮していきたいと考えております。一律に給食

時間を延長することは難しい状況ではありますが、学級の実情に応じて、給食を落ち着いて食べる時間を確保できるよう、引き続き環境づくりに努めてまいります。

Q38 多くの生徒が苦手なレバーなどを盛り込む必要はないのではないかと。

A38 給食で使用する食材についてのご意見をいただき、ありがとうございます。

本校の給食は、文部科学省「学校給食実施基準」に基づき、成長期の生徒に必要な栄養素を確保するとともに、多様な食品や調理法に触れることができるように構成しております。生徒の中には苦手とする食材があることや、食べ慣れていない料理について苦手と感じる場合があることも受け止めております。今後は実際の喫食状況や生徒の様子を踏まえながら、生徒への嗜好調査等も実施し、生徒の声を参考にしながら、栄養面や食育の視点を大切にしつつ、食べやすさや満足感にもより一層配慮した献立作成に努めてまいります。

Q39 なじみのない他国の料理よりも、普通のメニューで良いので沢山食べられるようにしてもらいたい。

A39 給食の献立についてのご意見をいただき、ありがとうございます。

本校では「郷土や国家を支える高い志と国際的な視野を備えたグローバルリーダーの育成」を基本理念として掲げております。そのため、給食を通して日本の文化や食に関わる歴史に触れたり、諸外国の食文化について知ったりすることも大切な教育活動の一つと考えております。そのため、文部科学省「食に関する指導の手引」に基づき、年間指導計画に沿って、家庭科で生徒が考案した献立や、日本各地・世界の料理、各教科の学習内容と関連した献立を取り入れることで、給食が「生きた教材」として学びにつながるよう工夫しております。

特別活動・課外活動について

Q40 進学校ゆえ、学業優先とは思いますが、高校生活の中で必要な人間関係の育成をはかるために、学校行事の充実をお願いしたい。また学業だけでなく、部活動に力を入れている生徒もたくさんいるので、そちらにも目を向け、全校応援の機会があったら、全力で応援する等の配慮をお願いしたい。

A40 本校は進学校として、学力の向上を重要な柱としておりますが、同時に、学校行事や部活動を通して培われる人間関係や協調性、達成感といった力も、生徒の成長に欠かせないものであると認識しております。

学校行事につきましては、学習とのバランスに配慮しながら、生徒同士が協力し合い、主体的に取り組める機会となるよう、内容や実施方法の工夫に努めてまいります。行事を通して得られる経験が、生徒一人一人の人的成長につながるよう、今後も充実を図ってまいります。

また、部活動においても、学業との両立を前提としながら、それぞれの目標に向かって努力している生徒がたくさんいることを学校として大切に受け止めております。大会や発表の機会などにおいては、校内での周知や応援の機会を設けるなど、生徒の頑張りを全校で共有し、互いに認め合える雰囲気づくりにも配慮してまいります。

Q41 あらかじめ年間予定を確認し、定期考査と公式戦がかさならないようにしてほしい。運動会や球技大会などのスポーツイベントは、次の日に模試があるなど、生徒に負担がかかる日程を避けて組み込んでほしい。

A41 定期考査を含む学校行事日程は、高体連・高文連・高野連等の大会等の日程が決定してから組み込みますが、県内には3学期制の高校も多くあること、各競技が日程をずらしながら大会を開催することなどから、やむをえず考査と公式戦がかさなってしまう場合があります。今後もできるだけ生徒に負担がかからないよう調整してまいります。

Q42 学校外で実施する学校行事の際には、公共交通機関の時間等、もっと配慮するか、借上バスなどを出してほしい。

A42 借上バスの手配については、保護者の皆様にとって安心につながるご提案であると受け止めております。一方で、借上げバスを利用する場合には、多額の費用負担が発生することから、現状では学校として恒常的に対応することが難しい状況です。

また、「公共交通機関の時間への配慮」につきましては、事前に利用する公共交通機関の時刻や移動方法を生徒へ周知し、余裕をもった行動ができるよう指導を行っております。当日も、状況に応じて教員が適宜声かけや確認を行いながら対応しております。なお、行事によっては徒歩や自転車等で移動する場合もあるため、移動中の安全確保を最優先とし、交差点や要所となるポイントに教員が立って見守りを行うなど、事故防止に努めておりますが、お気付きの点がありましたら、お知らせください。

Q43 運動会が非公開になったことは非常に残念。駐車場に限りがあることも理解できるが、数少ない子どもたちの活動を見ることができるとして大切に考えてもらいたい。

A43 例年、運動会は外部のスタジアムで実施しており、観覧を制限してはおりませんでした。今年度は、外部のスタジアムが改修工事のため使用できず、やむなく本校で実施いたしました。そのため、保護者の皆様のご期待に十分お応えできなかった点につきましては、大変申し訳なく思います。次年度は例年利用している外部のスタジアムの改修が終了するため、これまで通りの実施を予定しております。また、学校行事において生徒たちの活躍の様子をご覧になりたいという温かいお気持ちをお寄せいただき、心より感謝申し上げます。運動会に限らず、学校を会場に実施する行事の見学につきまして、本校といたしましても、できる限り多くの保護者の皆様にご参観いただきたいと考えております。しかしながら、校地内に十分な駐車場を確保することが難しく、安全面や近隣への配慮の観点から、やむを得ず見学人数や方法を制限させていただく場合がございます。そのため、場合によっては、事前に見学人数を制限させていただく、公共交通機関の利用をお願いする、または学年・学級ごとの入れ替え制での参観とするなどの対応を検討しております。あわせて、行事の様子を写真や動画で共有するなど、様々な形で生徒の活躍をお伝えできる方法についても検討してまいります。

Q44 《中等部》合唱コンクールの会場やグランドピアノによる伴奏を検討してほしい。

A44 予算や日程の都合もあり、難しい状況ではありますが、外部施設のスケジュールや会場費、グランドピアノのレンタル費用等について、改めて確認した上で検討してまいります。今年度の反省やいただいた

たご意見をもとに、よりよい合唱コンクールになるように努めてまいります。

Q45 《中等部》部活動の終了時刻を電車の時刻に間に合うように配慮してほしい。例えば、特に冬期間で通常より部活動が早く終わるのであれば、18 時台の遅い電車時刻に合わせるのではなく、一本前の時刻に間に合うようにミーティングを含め終わらせるようにしてもらいたい。

A45 中等部では夏季は 19 時、冬期は 18 時半(高校は通年 19 時半)が完全下校の時刻となっています。活動内容や活動時間は、各部活動や時期によって異なりますが、完全下校時刻を守ることや冬の天候等にも配慮するように努めてまいります。

Q46 部活動の練習計画が出されるタイミングがあまりにも直前で困る。遅くとも1週間前には予定を知らせてもらいたい。

A46 ご不便をおかけして申し訳ありません。今後は、計画表等の案内は準備に支障が出ないように、できるだけ早くお知らせするよう徹底してまいります。

Q47 《中等部》部活動の地域移行について、今後の学校方針を教えてください。

A47 秋田県教育委員会や市町村教育委員会と連携しながら、今後の方向性について検討しておりますが、現時点では、地域移行する際の受け皿となる環境の整備が不十分であるため、完全に地域移行することは難しい状況であるときいています。

なお、本校は中高一貫校であり、高校の部活動もあるため、本校ならではの部活動の在り方という視点でもこの課題について検討してまいります。

Q48 《中等部》部活動に積極的に外部コーチ等を招いて指導を行ったり、高校顧問やコーチから指導を受けたりする機会があっても良いのでは。

A48 外部コーチについては、生徒や保護者の方々の要望等を聞いた上で、今後も検討してまいります。高校との交流については、当該部活動の顧問同士の日程調整により実施可能であるため、各部活動顧問に対して交流を促しているところです。今後も中高一貫校のメリットを生かした部活動経営に努めてまいります。

Q49 部活動の顧問にもっと指導してもらいたい。

A49 本校教員も他校の教員と同様に、授業や学級経営、個別指導等の業務を担いながら部活動を担当しており、可能な範囲で部活動業務に取り組んでおりますが、すべての時間帯に常時指導にあたることは難しい場合もあります。しかし、技術の向上を図るとともに良好な人間関係を構築していくためには、顧問が日頃から部活動の状況を把握し、生徒とコミュニケーションを取ることが非常に重要であると考えております。特に、活動の場が安心・安全な環境となるよう、顧問が状況を観察し、必要に応じて指導・助言を行うことは大切な役割です。今後は、活動の時間帯や顧問の業務状況を調整しながら、可能な限り活動の様子を把握する機会を確保し、生徒との日常的な対話を意識的に増やしてまいります。また、部内の人間関係に課題が見られる場合には、早期に状況を把握し、適切な対応を行ってまいります。引き続き、生徒が安心して部活動に取り組める環境づくりに努めてまいりますので、お

気づきの点がございましたらお知らせください。

Q50 部活動等において、学校名で出る大会は、顧問に生徒を委ねるしかない。顧問が退職や異動により変更になることは、しかたないが、来年度に退職や異動が決まっているのなら、子供たちが、安心して競技に向かえるように、誰が来年度の顧問になってもわかるように、引き継ぎをお願いしたい。

A50 学校名で出場する大会においては、生徒を顧問に委ねる形となることから、顧問退職や異動が生徒や保護者の皆様にとって大きな不安につながることに付いて、学校としても十分に理解しております。教職員の人事異動につきましては、年度末に決定するものが多く、事前にお知らせできる内容には限りがありますが、異動や退職により顧問が変更となる場合には、これまでの指導内容や練習方法、競技上の留意点、生徒の状況等について、次年度の顧問へ適切に引き継ぐことを学校として重視しております。また、顧問が変わった場合においても、生徒が安心して競技に取り組めるよう、管理職を含めた複数の教職員で部活動の状況を把握し、必要に応じて支援や助言を行う体制を整えてまいります。

Q51 一部の部活動に力が注がれているように感じる。

A51 各部活動とも競技力や技術力の向上を目指して日々練習に取り組んでおります。学校としては、特定の部活動のみに注力していることはありませんが、そのように思われることがないように、各部活動の実態把握や環境整備に努めてまいります。

Q52 部活動の公欠で模試を受けられないことが多かったせいか、高校3年生になってから、参考にできる成績結果が少なくなってしまった。もう少し模試を受けさせたかった。

A52 模擬試験の実施回数や実施時期を見直すことも含めて、進路指導部と協議して改善に努めてまいります。

Q53 熱中症警戒アラート発令中の運動部の活動は中止にするとか、気温が比較的低い朝だけにするとかの対応を徹底してほしい。

A53 昨年6月に施行された労働安全衛生規則により、企業でも熱中症対策が必須となっています。学校も例外ではなく、今年度は暑さ指数(WBGT)を毎朝測定し、「33」を超えた場合は、部活動に限らず全ての活動における運動を中止しております。

修学旅行について

Q54 中高の海外修学旅行について、物価高騰などを踏まえた変更はあり得るのか。

A54 昨今の費用高騰を考慮して、中等部・高校ともに海外へ行くことにこだわらなくてもよいのではないかとのご意見もありました。一方で、中等部・高校の時期に海外へ行くことで、異文化に触れ、将来の進路や世界観を広げるきっかけになるとの意見もあります。また、引率教員の旅費については、県から支給される旅費に限りがあり、必要人数分を捻出するのが困難な状況もあります。今後も、生徒・

保護者の御意見を参考に、費用負担も含めて随時検討してまいりたいと考えております。

Q55 《高校》今年度の高校の海外修学旅行は、学校側の事前準備が十分でなかったのではないか。また、旅行中の連絡が国内班に比べてとても少なく、情報が不足していた。保護者として、もう少しこまめに状況を知らせてもらえると安心できた。

A55 修学旅行前の情報提供については、旅行会社から連絡が入りしだい生徒へ連絡し、9月実施の学年PTAにおいても旅行会社からの説明を動画配信いたしました。今回の海外修学旅行は、例年よりも参加生徒数が20名以上増加し、ホームステイ先の決定に関しては旅行会社からの説明のとおり、例年以上に時間を要しました。夏休み前から準備していただいたアプリケーションシートに基づいて、国内及び現地の業者とともにホームステイ先の調整を行い、事前に調査した生徒の希望も最大限考慮した結果、グループ分けの確定が旅行出発の直前となってしまいました。

また、より充実したホームステイ、現地高校との国際交流を実現するため、今年度は訪問校を3校に分けました。一方で、訪問校数が増えたことやオーストラリア国内での移動距離が例年より多くなってしまったこともあり、旅行期間中、国内修学旅行に比べて現地から保護者の皆様への情報提供の回数が少なくなってしまいました。その結果、ご心配をおかけすることになりましたことを心苦しく思います。今後の行事につきましては、「自主性を重んじること」と「教員の適切なフォロー」のバランスを再考し、生徒がより具体的な見通しをもって準備できるように努めてまいります。

PTAについて

Q56 《中等部》PTAの予算は中高別で作っていただきたい。必要な予算が中等部についているか、使われているのか今の現状においては全く分からないようになっているのは問題である。

A56 このたびは、PTA会計の在り方についてご意見をお寄せいただきありがとうございます。PTA会計につきましては、式典関係費や教育相談費など、中高共通で実施している事業を支えるため、合同で管理しております。なお、PTAは保護者と教職員が協力して学校運営に携わり、子供によりよい教育環境を整えることを目的とした自主的な団体であり、運営の在り方や会計の構成につきましては、役員会や総会等における協議・決定を経て進められるものとなります。学校としては、その趣旨を尊重しつつ、中高一貫教育の特色を踏まえ、中等部及び高校を一体とした一つの組織として運営してまいりました。

仮に会計を中等部と高校で分けた場合には、

- ①それぞれに独立した役員体制(会長等)を整える必要があること
- ②共通経費として支出している費用の按分が必要となること
- ③規模の縮小により、一人当たりの会費負担が増加する可能性があること

など、運営面・財政面で新たな課題が生じることも想定されます。こうした点も踏まえながら、PTAとしてどのような形が最も望ましいかを、今後丁寧に検討していくことが大切であると考えております。

Q57 《中等部》部活も、特に高校は、運動部(メジャー競技)や吹奏楽に金銭面も含め優遇されているように感じる。事務関連など前例踏襲を当然としないでいただきたい。

A57 PTA 理事会及び総会で承認された予算は、前年度の実績と次年度の活動計画に基づいて策定されております。また、中等部会費については、高校の 1/2 の額となっております。理事会・総会で承認された予算による運動部・文化部補助については、「秋田南高校・中等部支給基準」に基づき、東北大会以上の大会に出場した生徒を対象に交通費や宿泊費の補助を行っております。その他、生徒会予算においても、県内の大会に出場した生徒に対し、交通費や宿泊費の補助を行っております。現在、中等部の生徒において東北大会以上の大会に出場する運動部・文化部の生徒が増加しており、来年度以降、支援を継続することが厳しい状況となっておりますので、令和 8 年度から会費の値上げを検討しています。